

平成14年度 全国高等学校総合体育大会
(第20回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水 球 競 技 速 報 用 紙

2回戦

平成 14 年 8 月 17 日
会場: 茨城県・ひたちなか市営石川町プール

ゲーム

5

帽子の色 白

前橋商業高校
35

天候: 晴れ

9	-	0
8	-	0
9	-	0
9	-	0
EX.		
-		
-		
P.T.		
-		

帽子の色 青

松山西高校
0

審判1: 中 哲朗
審判2: 田原 忠雄

戦評

26回のインターハイ出場6回の優勝経験を誇る前橋商業も、ここ2年間全国の切符を逃し3年ぶりの出場となる。レベルの高い関東を抜けることの難しさを感じられるところであるが、それだけに今年の前商の復活にはどれだけの努力を積み重ねてきたかがうかがわれ、今大会での活躍には期待のかかるところである。一方や初出場の松山西、四国代表としては常連の高松南を抑えての全国初参戦、以前愛媛県には他にも水球チームがあったと記憶しているが、全国的に部員数確保の困難さが叫ばれている昨今であるし、四国という地域的不利さをも払拭してチームを育成することのご苦労も感じ取れる。ぜひ今後の普及にも繋がる良いゲームを期待したいものである。高いレベルで実践を積んでいるとはいっても、全員がインターハイ初経験ということもあってか多少浮き足だったミスもあったが、前評判どおりの強さを見せ前商が次々と得点する。志賀の小気味よい動きからの正確なシュート、小柄ながら足の強さが伺える糸井のフローティング、中村の高く強いディフェンス、お家芸のプレスディフェンスも健在で松山のパス回しもハーフライン前で寸断されることが多かった。前半の17点リードでメンバーを入れ替える余裕も見せ前商が勝利したが、決定的な場面でのシュートミスもあり課題が残った。松山はタイムアップまで3年生だけでプレイし高校最後の夏を戦い抜いた。2年生途中から入部し経験の浅さかったもう一人の3年生秋成も、終始ベンチから声援とアドバイスを送り続け、最終P1分間の実戦経験も積み水球を堪能することができたと思われる。この経験を地元に持ち帰りぜひ後輩達に受け継いであげてほしいと望むところである。